

胃内視鏡検査の流れ

まずは前日の準備から…。

食事については、前日の夕食は軽めにして夜9時までに終わらしましょう。仕事や予定で9時までには召しあがれない方は、少量の白米や素うどんなどをお勧めします。肉や油もの・野菜・キノコ類・海藻類・乳製品は避けましょう。

糖尿病で血糖コントロールが十分でない方やご高齢の方で胃もたれを起こしやすい方は、消化しきれずに胃の中に食物が残り十分に検査が出来ないことがあります。夕食は夕方6時までに済ませましょう。

検査当日は禁飲食ですが、腹部エコー検査がなければ、検査前まで水や白湯をお飲みいただけます→事前の検査注意書をご確認ください。

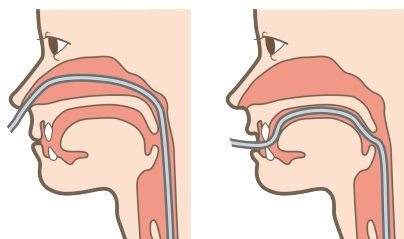
内服薬については、当日朝まで少量の水でお飲みいただけます。ただし、糖尿病の方や空腹での内服を禁止されている方は、主治医に内服について相談しておいてください（自己判断しないでください）。

抗血栓薬・抗凝固剤を内服中の方も休薬は不要です。当日はお薬手帳や薬剤情報紙などご持参いただくと助かります。

いよいよ検査の準備をしましょう。

看護師が現在の症状や過去の胃カメラ歴、ピロリ菌検査の有無や除菌歴などをお聞きします。

検査は経口もしくは経鼻を選択します。



経鼻内視鏡

経口内視鏡

過去に鼻の手術（美容整形）を受けた方や鼻出血を起こしやすい方、花粉症シーズンで鼻閉感に強い方などは、当日ご相談ください。

検査前に胃の泡を消す水薬（約80ml）を飲みます。

経口の方は麻酔薬を凍らせた物を口に含んでいただきます（かみ砕かないでください）

経鼻の方は両鼻に鼻出血予防の薬を噴霧し、麻酔の薬を鼻の中に入れていきます→鼻水をすするようにするとスムーズに入っていきます。

さあ、準備が出来ましたら検査室にご案内します。

いよいよ検査が始まります。

検査中は全身の力を抜いて、ゆっくり呼吸をすることがコツです。挿入された胃カメラが口もしくは鼻に入っていくとき、頭を後ろに反ってしまいたくなりますが、左の頬を枕に付けることを意識します。検査前の麻酔は1時間ほど効果があります。つばを飲み込まないこと、口の中に溜まったつばは顔の下の防水シートに流し出してください。飲み込むとむせてしまい、焦って呼吸が乱れてしまいますので、つばは遠慮なく流し出してください。目を瞑ると余計な力が入ってしまいます。患者様用のモニターがあるので、検査中は画面を眺めておくのもうまく検査をうけるコツです。普段見ることのできないご自身のおなかの中を眺めていきましょう。

お疲れ様でした…

無事に検査が終わりましたら口の中のつばはティッシュにぬぐい出しましょう。鼻もかんでいいですが、優しくゆっくりかんでください。落ち着かれましたら、医師から説明があります。

検査後の注意事項としては、経口で受けた方は1時間、経鼻での方は約30分間飲水食が出来ません。それぞれの時間になりましたら、2～3口の水を飲み、むせなければ食事が召し上がれます。食事の制限はありません。ただし、検査中に組織検査を行った方の食事は2時間後になります。検査当日は香辛料などの刺激物や飲酒を控えてください。また組織検査結果については2週間後以降、外来に聞きに来ていただくようになります。

決して楽な検査ではありません。「同僚から鼻でやったら楽だったと聞いたけど、辛かったよ」とおっしゃる方もいます。痛みや感じ方はその方々で異なるので、多少は仕方ないかもしれません。我々医療者は、受診者の方が極力苦痛なく検査を受けていただくよう努力しています。いろいろ感想などお話しただければ、今後の業務に生かしていきたいと思えます。

この記事がこれから胃カメラを受けようか悩んでいらっしゃる方の参考になれば幸いです。